

父母・祖父母による子・孫育てに対する認識の実態調査

百田由希子¹⁾*・四宮美佐恵²⁾・安田陽子²⁾・三好年江³⁾・合田衣里⁴⁾

1) 新見公立大学健康科学部看護学科 2) 新見公立大学助産学専攻科

3) 新見公立大学健康科学部健康保育学科 4) 新見公立大学健康科学部地域福祉学科

(2019年11月20日受理)

目的：子育て支援の一助を得るために、父母が祖父母に対して、祖父母が父母に対して抱く、育児観の世代間の認識の相違を明らかにした。

方法：父母200名と祖父母118名を対象に、子育ての意見を「とてもある」「少しある」「ほとんどない」「ない」の4件法で集計し、世代間で分類し、認識の実態を比較検討した。

結果：父母が祖父母との意見の相違で、「とてもある」「少しある」を選択し、その合計が高率を示した項目は、「おやつとの与え方、離乳食や食事の内容、しつけや叱り方」であった。祖父母が父母との意見の相違の高率項目は、「しつけや叱り方、おやつやおもちゃの与え方」であった。

結論：世代間の意見の相違が多かった項目について、父母に対しては、お互いの理解を深め、情報共有を密に図ること、祖父母に対しては、子育ての主体が父母であることを意識し、時代の変化に伴い柔軟に対処していくことができるように支援していくことが必要であると考えられる。

(キーワード) 母子保健、子育て支援、祖父母

I. はじめに

景気の穏やかな回復基調が続き、労働市場では、アベノミクスによる「働き方改革」の取り組みから、時間や場所を選択でき、多様で柔軟な働き方の導入に乗り出そうという動きがある。職場の理解や環境整備が整い、仕事と子育ての両立をする女性が増えている^{1) 2)}。

このような社会情勢を受け、子育て中の母親の就労の期待が高まる一方で、依然、公的機関や専門職による制度に基づくサービスの環境整備は充足しているとは言えない。幅広いニーズに対応出来る祖父母や地域のボランティアといった、インフォーマルサポートの活用は、子育て世代にとって、安心して子どもを生み、育てることが出来る環境要因の一部を担っていると言える。特に、祖父母と孫との接触頻度が、多いほど、心身に良い影響を与えるといった報告³⁾もあり、祖父母が、主体的well-beingの増進や地域で主体的に活躍することで、新たなアイデンティティを獲得することに繋がると推測される。一方で、互いの理解不足や教育方針の相違から、近年では、祖父母手帳の発行をはじめ孫をむかえる人への子育て学級などが開催されており、子(孫)育て環境をサポートする体制が検討されている^{3) 4)}。

そこで本研究では、支援の一助を得るために、父母が抱く祖父母に対して、祖父母が抱く父母に対して、育児観の

相違による葛藤や要望、困難感や戸惑いと、世代間の認識の相違を明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 研究対象者

父母：A大学内にある子育て広場に情報登録のある保護者や、子育てサークルに通っている保護者200名に調査用紙を配布した。そのうち、回答が得られた109名を研究対象とした。

祖父母：地域の公民館や健康広場で開催される健康教室に通っている人の中で、孫のいる祖父母118名に調査用紙を配布し、回答の得られた86名を研究対象とした。

2. 調査期間

調査期間は、2018年12月から2019年3月であった。

3. 調査方法

無記名自記式質問紙調査で調査した。基本属性は、年齢、性別、それに住居環境として、「同世帯」か「別世帯」(同じ市町村に在住と隣接した市町村、県外に在住を含める)、父母に対してのみ、職業の有無を求めた。また、子・孫育てに対する認識については、先行研究を参考に、母乳や離乳食に関すること、しつけや遊び方などの子(孫)との関わり方について、安全管理や保健衛生に関すること、育児方針や産後の母親の就労について、父母(祖父母)との考

*連絡先：百田由希子 新見公立大学健康科学部看護学科 718-8585 新見市西方1263-2

え方の相違や葛藤、困難な点や戸惑いなどを感じたことがあるかどうかの内容を尋ねた。設問は12項目で、父母は祖父母に対して、祖父母は父母に対して、意見や考えの違いを感じたかどうかを、「とてもある」「少しある」「ほとんどない」「ない」の4件法による選択肢を回答してもらった。

調査用紙の回収は、回収箱または、郵送による投函とした。

4. 分析方法

父母と祖父母の基本属性と、意見の相違内容からなる調査項目を父母と祖父母でそれぞれ分け、記述統計を行った。また、父母や祖父母の住環境が、「同世帯」か「別世帯」かによる意見の相違をみるために、「同世帯」と「別世帯」の2群に分け独立変数とし、意見の相違の調査項目を「とてもある：4点」「少しある：3点」「ほとんどない：2点」「ない：1点」と点数化し従属変数とし、Mann-Whitney U検定を行い、有意水準は5%未満とした。

父母に対して、祖父母のサポートで身体的・精神的に助かった出来事について、自由記載を求め、内容の類似性によりまとめた。

5. 倫理的配慮

研究対象者に、文書により研究の主旨、目的、方法、調査協力の任意性、個人情報およびデータ保護等について説明した。本研究は、無記名による調査で個人が特定されないこと、調査への参加の有無については、調査用紙に、同意の有無のチェック欄を設け、調査への参加の同意が得られた場合には、チェックしてもらうよう依頼した。なお、本研究は、所属大学研究倫理委員会の承認を受け実施した（承認番号：第162号）。

III. 結果

1. 調査用紙の回収状況と回答者の基本属性

調査用紙の回収状況は、父母の回収は109名、回収率は54.5%であった。祖父母の回収は86名、回収率は72.9%であった。

回答者の基本属性として、父母の年齢は、30代が一番多く、71名（65.1%）であった。祖父母の年齢は、60代が一番多く、36名（41.9%）、次いで70代の29名（33.7%）であった。男女比については、父母が女性102名（93.6%）、男性6名（5.5%）、祖父母が女性51名（59.3%）、男性33名（38.4%）であった。同居の有無については、同居している父母は31名（28.4%）で、祖父母は24名（27.9%）であった。父母の職業の有無は、常勤43名（39.4%）、専業主婦41名（37.6%）、パート・アルバイト22名（20.2%）であった（表1）。

2. 父母と祖父母間の意見の相違について

父母と祖父母に対し、育児方針について、考えの違いや戸惑いを感じたことがあるかどうか、「とてもある」「少

表 1. 対象者の属性

	父母 (n=109)			祖父母 (n=86)		
	(人)	(%)		(人)	(%)	
年齢	20 ~ 29歳	20	18.3	50 ~ 59歳	6	7.0
	30 ~ 39歳	71	65.1	60 ~ 69歳	36	41.9
	40 ~ 49歳	17	15.6	70 ~ 79歳	29	33.7
	未回答	1	0.9	80 ~ 89歳	13	15.1
				未回答	2	2.3
男女比	女性	102	93.6	女性	51	59.3
	男性	6	5.5	男性	33	38.4
	未回答	1	0.9	未回答	2	2.3
同居の有無	同居している	31	28.4	同居している	24	27.9
	同じ市町村に在住	47	43.1	同じ市町村に在住	26	30.2
	隣接した市町村	8	7.3	隣接した市町村	8	9.3
	県外に在住	16	14.7	県外に在住	16	18.6
	未回答	7	6.4	その他	7	8.1
			未回答	5	5.8	
職業の有無	専業主婦	41	37.6			
	常勤 (フルタイム)	43	39.4			
	パート・アルバイト	22	20.2			
	その他	2	1.8			
	未回答	1	0.9			

しある」「ほとんどない」「ない」の4件法で尋ね、結果を図1・2に示した。「とてもある」「少しある」を選択し、その合計が高率を示した項目については、自由記載を表2・3に示した。

父母が祖父母との意見の相違で、高率を示した項目は、「おやつとの与え方」が64名（58.7%）、「離乳食や食事の内容」が46名（42.2%）、「しつけや叱り方」が39名（35.8%）であった。

「おやつとの与え方」についての自由記載では、「食事前で、時間を考慮せずに与えること」や、「甘い物に対しての虫歯のリスク」についての意見があった。「離乳食や食事内容」についての自由記載では、「アレルギーに対する知識や配慮」に関すること、「食べさせる時期が早い」「同じ箸やスプーンの使用を嫌がる」といった意見があった。「しつけや叱り方」については、「自分たち（父母）の叱

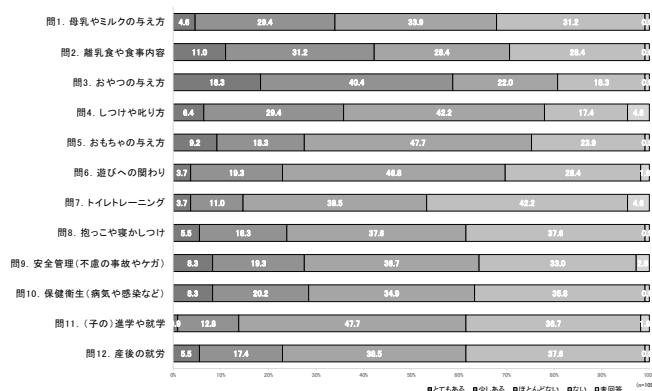


図 1. 祖父母との意見の相違について

表 2. 祖父母との意見の相違で高率を示した上位3項目の自由記載

問2. 離乳食や食事内容	
刺身やはちみつを食べさせることに抵抗がない	
アレルギーに対する知識、配慮がない。何でも食べさせようとするので、アレルギー等が心配になった	
箸を握けない。味つけが濃くても与える、はちみつがダメなど知らなかった	
塩分やだしを取り方、味の濃い物やおやつ時間など	
離乳食終了後はこちらは気をつけているのに色々与えたりする	
親世代は早くから何でもあげようとする。野菜や硬さの事をあまり考えずに与えようとする。早すぎる食材	
今と昔では与えていた物が違っていて、勉強してくれる反面、自分の育児と私の育児を比較され、嫌な気持ちになることもあった	
義母は時間かかっても本来の味とその都度声かけあり	
昔の内容を教えてくれるが無理じいはいない	
自分たちの時は口で伝えてあげてたときいた。食事は食べたいだけあげようとしていた	
同じスプーンや箸を使うことに抵抗がありました	
インスタントをあまり与えたくないが小さい頃から与える祖母	
栄養士だから離乳食の事は細かく言われる	
食べさせすぎだと注意される	
お粥は米からガスでたくようにとその方がおいしいからと	
今のやり方に合わせようとしてくれるが、とりあえずおかしに何でも入れようとする	
今のほうがきびしいかな	
問3. おやつとの与え方	
おやつやジュースを与えすぎて困る	
チョコなど与えたりする。勝手に与えられると困る	
子どもが食べたものを食べたいだけ与えたり	
泣いたら「おやつが足らぬのじゃない？」と言われる	
午前中に与えたくないのに胃袋が小さいからという理由で11時頃に与える	
子どもが喜ぶので、甘いものをくれる	
欲しい時いつでもあげるのが、父母。時間決めてあげるのが私たち	
親世代はすぐあげたがる。ほしがったら与える。買う	
子どもの前で砂糖がたくさん入ったお菓子を食べてほしい	
時間を決めてあげているのに、欲しいとすぐ食べさせようとする。欲しがればあげたがるが、私は時間を決めて	
大人と同じ箸やスプーンを使うので父に注意した事がある	
祖父母は孫におやつこまめに与えています	
本人が好きだというのでその商品ばかり買ってストックしている。夕方でもあげてしまう	
保育園から帰ってたくさんおやつを食べ、夕飯がすすまない。与えてほしくない時に与える時がある	
ご飯の前などにあげるので家でごはんを食べないことがある	
おやつは時間を決めてあげたいが、曾祖母は勝手に時間関係なくおやつをあげる	
アレルギーや量、あげる時間、私に聞かずにどんどん与える。ご飯前でもほしがらるままにあげる	
その後のご飯を食べられるかどうかは気にしない	
自分と同じ物を時間を考えずに与える。ヨーグルト、市販のせんべいをあげたがる	
幼児用おかしから普通のおかしへの切り替りのタイミング	
虫歯のリスクについて理解してもらうのに時間がかかった	
親が指導説明しました。大人でも甘くてこってりと感じるものを本人は何も言っていないのに、「あげないとかわいそう」と言われてあげようとしていた	
甘いものをたくさん与えたりする。食べさせないのはかわいそう	
スーパーに買い物に行くとき子どもが好きなおやつを買って食べさせる	

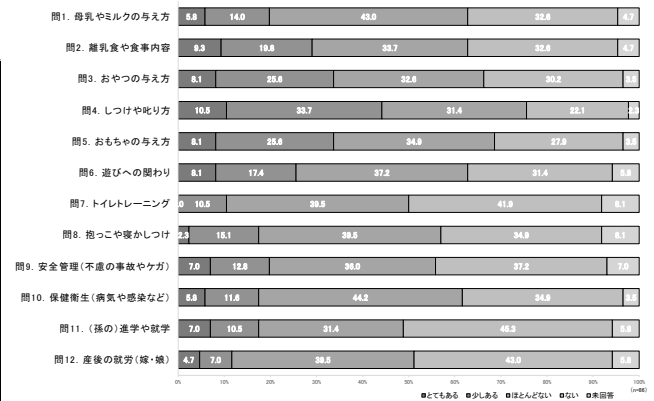


図 2. 父母との意見の相違について

表 3. 父母との意見の相違で高率を示した上位3項目の自由記載

問3. おやつとの与え方	問4. しつけや叱り方	問6. おもちゃの与え方
甘いおやつを食べたいが虫歯になりやすいこととわられる	すなおにしつける	与えすぎ
甘い物を食べさせすぎ	全然おこらない	数が多いので大切にしない
炭酸飲料あげている	全然といっていい程叱らなかつた	たくさんあってビックリした
おやつを常時、常備している	叱らない主義が気になる	次々と色々な物を買って与え過ぎる
あめをはやくからあたえていたのであふないと言った	叱ったあと大泣きするのが嫌みたいてたまに黙っている事がある	時間決めてない
かみ切れるものになっている	言葉がひどい。言葉使い	ゲームは別として
私がついていって買ってきて、かつては手作りが多かった	叱ってばかり 自分の行動も少し反省した方がと思う事がある	スマホなどを勝手につかせている
昔子供に与えた物と今のおやつとの違い	その時の自分の気分で叱っている。親の都合で叱る	乳児もスマホゲームをする
時間とかは変わらないと思う。おやつは手作りが多かった	兄弟げんかの際の対応について	今は安全プラスチック品が多いが、木製品は暖かみがある
時間を決めて、少なめがよいと思う	ゲンコツ、・・・少し痛目にする	家の中と外のちがいが
食後に与えた方がいい	子供が納得するまで教えている。昔はいいかげん	方法等世代の違いをとでも感じ腹立しい
食事の前	自分の時どうだったか不安なので何もいえない	私はおもちゃを与えたことはない
できるだけ味の濃くない物をやりたいたと思ってます	あいさつ	
まんじゅう ないであげた	かわからないことにしている	
	年代の違いによって感覚が違うから一概には判断できにくい	

表 4. 住居環境の違いによる祖父母との意見の相違

問10. 保健衛生について (病気や感染など)					人(%)	
	ともある	少しある	ほとんどない	ない	合計	平均値 標準偏差
住居環境	n=9	n=22	n=33	n=37	n=101	
同世帯	3(3.0)	1(1.0)	11(10.9)	16(15.8)	31(30.7)	1.71 0.94
別世帯	6(5.9)	21(20.8)	22(21.8)	21(20.8)	70(69.3)	2.17 0.96
$df=1, p=.016$						
問11. (子どもの)進学や就学に関して					人(%)	
	ともある	少しある	ほとんどない	ない	合計	平均値 標準偏差
住居環境	n=1	n=14	n=48	n=37	n=100	
同世帯	0	3(3.0)	11(11.0)	17(17.0)	31(31.0)	1.55 0.68
別世帯	1(1.0)	11(11.0)	37(37.0)	20(20.0)	69(69.0)	1.90 0.71
$df=1, p=.018$						

SD=0.68、別世帯M=1.90、SD=0.71、 $p=.018$) が、有意に高かった。祖父母の住居環境の違いによる意見の相違では、有意な差はみられなかった。

5. 父母が祖父母から得られた支援の内容について

父母を対象に、祖父母によるサポートで助かった内容

り方についての意見」や「しかることをせず危険なことがあっても見てるだけ」といった意見があった。

3. 祖父母と父母間の意見の相違について

祖父母が父母との意見の相違で、高率を示した項目は、「しつけや叱り方」が38名(44.2%)、次いで「おやつとの与え方」「おもちゃの与え方」で29名(33.7%)であった。

自由記載では、「しつけや叱り方」については、「全然怒らない」や「親の都合で叱っている」など両方の意見があった。「おやつとの与え方」では、「炭酸飲料や甘い物を与えている」といった意見があった。「おもちゃの与え方」の自由記載では、「買い与えすぎ」「乳児もスマホをする」といった意見があった。

4. 別世帯と同世帯の違いによる意見の相違について

父母の住居環境の違いによる意見の相違について見たところ、別世帯は、同世帯よりも「保健衛生について(病気や感染など)」(同世帯 1.71 ± 0.94 、別世帯 2.17 ± 0.96 、 $p=.016$)、「(子どもの)進学や就学に関して」(同世帯1.55、

を、身体的と精神的側面からそれぞれ、自由記載の回答を求めた。内容の類似性をもとに、表5に結果をまとめた。

身体的側面で多かった内容は、「自分の体調不良や妊娠中、家族で健康を害していた時に、子守りをしてくれて助かった」「土日の勤務や仕事が長引いた時に、保育園に迎えに行ってくれたり、そのまま世話をしてくれた」などの意見もあった。また、「子どもの急な発熱や病気、ケガなどで直接対応をしてくれたり、病院に連れて行く際に、きょうだいの面倒を見てくれたことが助かった」「父母自身の健康診断や友人の結婚式に出席するのに、時間を割いてくれたり、身体を休めるよう、時間を取ってくれたことも助かった」という意見があった。

次に、精神的側面で多かった内容については、「共感してくれる言葉がけや上の子どもを見てくれることにより、下の子との関わりに余裕が持てたこと」「子どもを見てくれるサポートがあると思うだけでも精神的に助かっている」「話し相手や愚痴を聞いてくれること」といった意見があった。また、少数意見ではあるが、「金銭的サポートも精神的に助かる」といった意見があった。

表5. 祖父母によるサポートについての自由記載

	概要	具体的な記述内容
身体的に助かったこと	日常的なサポート	ご飯やお風呂 保育園や習い事への送り迎え
	自分の体調不良時の手伝い	・産後1ヶ月半 実家に戻って生活していたが、授乳や寝かしつけで私はいっぱいだっただったので、ご飯や洗濯などをしてくれたことは助かった。 ・隣接した市に住んではいるが、遠いので頻繁には頼みませんが、体調が悪い時に買い物をしてきてくれた。 ・自分が病気になる時など、子どもを預かって見てくれた。
	土日の仕事等での世話	・フルタイムで仕事をしているため、子供が病気や、保育園が休みの時、かわりに見てくれて、とても助かった。 ・休日の仕事の際、病気で保育園に行けない時の子守をしてくれた。 ・仕事が遅い時、見守って下さって安心できた。
	急な病気やケガの時の対応	・病気の時の看病、通院。 ・子どもが病気になる時、入院したときみてくれて助かった。 ・上の子を病院につれていく時、下の子を見てもらえた。
	夫婦二人、自分だけの時間の確保	・ドック健診の時は、夫婦で受けるので助かる。(その間だけ子供を見てもらう)。 ・友人の結婚式や同窓会などの時、子どもを見てくれた。 ・「子守るから寝てきていいよ」と言ってくれた。
	精神的に助かったこと	安心感や余裕
話し相手		・私の話し相手になってくれた。 ・父母(実) ぐちを聞いてくれた。 ・子供を育てていて息づまった時、お茶をしながら向かい合って話せる事(義母)聞き上手です。
金銭的サポート		・金銭面でのサポート ・「いつも育児お疲れ様！」と夫にはないが、私にだけお年玉をくれて、そのお気持ちがとても嬉しかった。おやつタイムしてね！とおかしをくれた・・・うれしい。

IV. 考察

今回の研究では、父母と祖父母を対象に、育児の意見の相違による葛藤や要望、困難感や戸惑いについて、世代間の認識の実態を比較検討し、子育て支援の一助を得ることを目的とし、調査を実施した。父母と祖父母の育児の意見の相違の多かった項目の比較と祖父母のサポートにより、助かった意見の自由記載に関して考察する。

1. 父母の祖父母に対する育児の意見の相違の多かった項目について

父母の祖父母に対する意見の相違の高率を示した項目は、「おやつとの与え方」「離乳食や食事内容」といった、子どもの食に関する内容があった。今回の調査対象の父母の男女比の割合が、93.6%でほぼ女性が占めており、日々の食事を主に担当し、子どもへの健康を考慮した結果ではないかと考えられた。これらの項目の自由記載には、祖父母に対して「食べたい時に与える」「食事前のおやつが困る」「子どもが喜ぶので、甘いものを与える」などといったように、孫への過度な甘やかしを嫌う父母の意見があった。これらの内容は、甘い物や口腔内の細菌を介した虫歯の発生を懸念したもので、離乳食については、約75%の保護者が何らかの「困りごと」を有しているとの報告もあり⁵⁾、発育・発達の重要な時期にある子どもにとって食の問題は、生涯にわたる健康への影響もあり、父母の責任は重くのしかかっている結果だと考えられた。一方で、祖父母にとっても、孫との関わりにおいて、目の前に置かれている状況、例えば、子どもの機嫌が悪く対応に困っている場合や、おやつを与えて孫の喜ぶ顔を見たいという祖父母の心理も理解できる。

また、年々増加する食物アレルギーに対して、父母の自由記載の中で、「(祖父母がアレルギーに関する)知識や配慮がないため、心配に思う」といった意見があった。孫がかわいいからと何でも与えてしまう祖父母と、摂取内容によっては、アナフィラキシーショックのような重篤な症状に陥る場合があるため、双方の意見の相違がみられたと考えられる。

これら双方の意見に対応するために、祖父母に対しては、父母が使用する最近の離乳食事情の内容の含まれる講義やレトルト食品を使用した料理教室、食物アレルギー時の対処方法の講座などの開催が考えられる。また、父母や子どもたちにとっても、食を通じて健康なからだづくりを体験するイベントや、食文化の継承など、三世代が一体となった交流の場の提供が提唱される。

2. 祖父母の父母に対する育児の意見の相違の多かった項目について

祖父母が父母に対して、意見の相違が多かった項目は、「しつけや叱り方」「おやつとの与え方」「おもちゃの与え方」であった。「しつけや叱り方」

の自由記載では、父母に対して、「全然怒らない」「叱ってばかり」といった両極端の内容があった。また、父母が祖父母に対しての相違も高率を示しており、お互いが共通した相違意見であった。これは、近年の家族形態の変化や個の尊重により、「叩いて育てていた」時代から、「叱らない子育て」が主流になってきたためではないかと考えられる。近年、親による痛ましい事件が後を絶たない中、力づくで教え込む教育では子どもは、何も学ばない。当然ながら、子どもにとって、基本的信頼関係を育む最初の存在は、父母である。その親から、「しつけ」の名の下の暴力は、その後の子どもの心理発達の側面に大きな影響を与えられている⁶⁾。叩かれて育った祖父母世代に、優しく子育てをしていくことの理解は、困難な点も多いこともあるが、愛情をもってしつけや社会規範に対応できるよう関わってもらいたいと考える。

3. 同世帯と別世帯による育児に対する意見の相違について

住居環境が「同世帯」か「別世帯」の違いによる意見の相違を分析した結果、父母の「保健衛生について（病気や感染など）」「（子どもの）進学や就学に関して」の2項目の平均値が、別世帯の方が有意に高かった。

「保健衛生について」は、我が国における公衆衛生水準の向上や予防医療の効果は著しく、先行研究の調査からも予防接種のような新しい制度への戸惑いを感じている⁷⁾ように、複雑な制度や医療の変化を理解するのに、父母でさえ時間を要するため、住居環境の「別世帯」である祖父母へは、常日頃、話をしていないと理解が深まらないのかもしれないと考える。

「（子どもの）進学や就学に関して」は、グローバル化や情報技術の進展に伴い、社会状況が刻々と変化する中、学校や就職先選びも多様化している。年功序列や終身雇用が当たり前だった時代から、子どもたちに求められる学力や就職スタイルも変わってきている。一律に人物評価をしていた時代から、特別な資格や能力といった個を尊重する時代へと変化してきている。進学や就学に関しては、本人の意思が尊重されることが多いが、将来どのような大人になりたいかといった考え方や価値観は、日々の同じ生活空間で過ごしていないと詳細な部分まで理解できないため、差が出たのではないかと考えられた。

4. 父母が祖父母から得られた支援の内容について

祖父母によるサポートについての自由記載では、自分の体調不良時や緊急時の対応が助かったといった内容が多くみられた。今回の調査結果では、父母の就業の有無は、常勤とパート・アルバイトを合わせると約6割が仕事に就いていた。特に、就労している父母にとって、仕事と子育ての両立は、目いっぱいところで成り立っていると考えられ、急な対応や体調不良時など、隙間を埋める体制が子育て世帯には必要不可欠である。

父母と祖父母の関係が、普段からうまくいくために、父母は、祖父母のサポートに対して、感謝の意を伝えること、祖父母は、時代の変化に柔軟に対処していき、子育ての主体は、父母であることを意識して関わる必要があるのではないかと考える。また、別世帯であっても休日などを利用し、祖父母は、いつもの孫の様子や状況を理解しておくことが大切で、父母も自分たちの譲れない方針がある場合、きちんと気持ちを伝えることが必要であると考えられる。

V. 結論

父母が祖父母に対して、祖父母が父母に対して、育児観の相違による葛藤や要望、困難感や戸惑いについて、世代間の認識の実態を比較検討した。

父母が祖父母との意見の相違で、人数が多かった項目は、「おやつとの与え方」「離乳食や食事の内容」「母乳やミルクの与え方」で、祖父母が父母との意見の相違が多かった項目は、「しつけや叱り方」「おやつとの与え方」「おもちゃの与え方」であった。

世代間の意見の相違が多かった項目について、父母に対しては、お互いの理解を深め、情報共有を密に図ること、祖父母に対しては、子育ての主体が父母であることを意識し、時代の変化に伴い柔軟に対処していくことができるように支援していくことが必要であると考えられる。

謝辞

調査用紙にご協力くださいました父母、祖父母の皆さまに心から感謝申し上げます。

付記

この論文の内容に関する利益相反事項はない。
（本研究は、2018年度学長配分研究費の助成によって実施した。The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conferenceで発表予定）

文献

- 1) 内閣府：平成29年度年次経済財政報告。2017。
- 2) 男女共同参画局：男女共同参画白書。2018。
- 3) 久保恭子，宍戸路佳，坂口由紀子，他：プレグランマの孫育ての意識と今後の課題。母性衛生，55(2)，454-461，2014。
- 4) 角川志穂：初孫を育てる中で祖父母が抱く孫の両親との役割関係の葛藤の実態。母性衛生，56(4)，531-538，2016。
- 5) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局：平成27年乳幼児栄

- 養調査結果の概要. 2016.
- 6) 久保田まり：児童虐待における世代間連鎖の問題と援助的介入の方略 発達臨床心理学的視点から. 季刊社会保障研究, 45 (4), 373-384, 2010.
 - 7) 渡辺美佳, 富岡美佳：小児期の予防接種を受ける子どもの母親の意思決定に関する研究 初めて予防接種を受ける子どもの母親の接種決定に導くまでの気持ちの変化. 母性衛生, 59 (1), 54-62, 2018.
 - 8) 石井邦子：乳児期にある孫をもつ祖父母に対する孫育児支援活動の実態と課題. 母性衛生, 52 (2), 311-318, 2011.
 - 9) 右田温美, 梅野貴恵, 熊谷淳二, 他：祖母の母乳育児に対する意識に関する研究 祖父母学級受講の有無による比較. ペリネイタルケア, 29 (8), 92-99, 2010.
 - 10) 津間文子：祖母の担う「孫育て」が祖母自身に及ぼす影響 - 子ども世代に対する子育て支援 -. 母性衛生, 53 (4), 2013.
 - 11) 角川志穂：子育て支援に向けた祖父母学級導入の検討. 母性衛生, 50 (2), 300-309, 2009.
 - 12) 西朋子, 三宅公洋, 友川幸：地方都市の中山間地域における子育てと子育て支援の特徴. 信州大学教育学部研究論集, 11, 69-83, 2017.
 - 13) 中園真人, 伊藤優里, 山本幸子, 他：中山間地域における子育て支援施設の設置形態と利用特性. 日本建築学会計画系論文集, 81 (721), 713-721, 2016.
 - 14) 小松紗代子, 斎藤民, 甲斐一郎：孫の育児に参加する祖父母の精神的健康に関する文献的考察. 日本公衛誌, 57 (11), 1005-1014, 2010.
 - 15) 寺坂多栄子, 斎藤祥乃, 土川祥, 他：初めて妊娠した娘をもつ実母の孫育て講座に対するニーズ. 滋賀母性衛生学会誌, 11, 7-11, 2011.

A Survey to Clarify Differences in Parenting and Grandparents' Perceptions of Parenting

Yukiko HYAKUTA, Misae SHINOMIYA, Yoko YASUDA, Toshie MIYOSHI, Eri GODA

Department of Nursing, Niimi University, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

Parents and grandparents were asked about the differences and conflicts in childcare. An item on which the views of parents often differed from those of grandparents concerned snacking (64 individuals, 58.7%). The views of grandparents on how to discipline and scold children often differed from those of parents (38 individuals, 44.2%). The findings indicated that parents need ways to directly express gratitude to grandparents and that grandparents need opportunities to learn modern-day parenting.